# Wind -an irregurar blow tender breath-

teru

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｗｉｎｄ －ａｎ ｉｒｒｅｇｕｒａｒ ｂｌｏｗ ｔｅｎｄｅｒ ｂｒｅａｔｈ－

【Ｎコード】
Ｎ８０７０Ｘ

【作者名】
ｔｅｒｕ

【あらすじ】
この作品はｔｅｒｕの処女作（？）ってやつです。
読みにくい点、改善したほうが良い点などありましたら感想にて送ってくれると感謝感激です。
タイトルを見てわかって頂いた方も多いと思いますが、この小説はＷｉｎｄ －ａ ｂｒｅａｔｈ ｏｆ ｈｅａｒｔ－ の二次創作です。また、タグにもありますが主人公が少々チート気味です。（まぁ、そこまで強くしたつもりはありませんが）

とにかく、そういうのが苦手な方は読むのをやめてＡｌｔ　＋　↑
を押したほうがいいかもです。

# 第一話　Boy meets God

それは冬の朝のことだった。
俺はいつも通り朝４時半に起き、ジャージに着替え、日課の牛乳配達をやっていた。
俺は冬という季節が好きだ。なんというか、空気だけじゃなくて風までもが透明色になったかのようで……（これを友人に行ったところ一笑に付されたのだが）
「おー。今日も憎たらしいくらい、良い天気だ。」
別に俺は晴れが嫌いではない。ただ、冬の季節と言ったらやはり多少雲が出て、かつ雪なんて降っていたら最高だろう。まぁ、その場合自転車が使えなくなって走りながら牛乳配達をしなければいけないが。
ふと。雲一つないはずの空になにかが見えたような気がした。
そして、次の瞬間。
俺はこの世からおさらばしていた、というわけだ。

「俺は神様って呼ばれてるな。んで、君は死にました」
「……もうちょっとわかりやすく説明してくれる？」
と答えたのは俺こと久世壮一（くぜそういち）。いつも通り起きると目の前にいたおっさんに「あんた誰？」と質問した答えが最初の文だ。
「いや、忘れてるっぽいけど朝に自転車で走ってた君の上に物を落としちゃってね。で、君はそのままぽっくりと」
朝ってことは毎朝やってる牛乳配達のことか。ぽっくりとって…まぁ、ここは素直に情報でも聞き出しておこうか。
「ってことはここは死後の世界ってことか」
「そうそう。というか疑わないの？俺の言ってる事なんてまるっき

り与太話でしょ」
「まー、正直完全に信じてるってわけではないけど、信じなかったら話が進まないじゃん」
これは俺の正直な感想。つーか、そもそも死んだ以上、「はい、あなた死にました。」だけで済むわけがない。この後何があるか……
「なんというか順応性が高いというか……」
「よく言われる。で？俺は地獄にでも行けばいいのかい？」
「そこでなぜに地獄かね。いや、このまま死なせはしないさ」
「ほう？」
どういうことだろうか。
「俺の責任で寿命を縮めちゃったからね。このままだと上にいろいろ言われるし、何より減棒ものだし」
「要するにもみ消すってことか。悪だな。神様ってのは正義を表している物じゃなかったっけ？」
「まぁまぁ。じゃあ、どっかの世界に放り込んであげるよ」
！これは…もしかして…異世界ものの二次創作によくあるパターンでは？
「それはゲームとかラノベの世界とかでもいいんだよな？」
「だよ。好きな世界を選ぶといい。あぁ、オマケで何か能力でも付けようか？さすがに魔力無尽蔵とかは無理だけど」
「ん～～～～悩むなぁ……」
能力がおまけでついてくるのはありがたい。が、一番最初に考え付いた魔力無尽蔵をばっさり無理といわれると……
「まぁそんなに悩まずに。ネギま！？とかゼロ魔とかが良いのか？」
神様……結構オタクだな……そして、二次創作によくあるこの二つを選んだところを見ると二次創作のものもかなり読んでるか……？
ぽっと、本当になぜ忘れていたかわからないくらいにその考えは頭の中に浮かんできた。
よし。これなら条件も満たしているだろう。

「じゃあ、Ｗｉｎｄで。」
「なんだそりゃ」
「神様……まさかＷｉｎｄ　－ａ　ｂｒｅａｔｈ　ｏｆ　ｈｅａｒｔ－　を知らないって言わないよな……？」
「知らん」
「オラそこに正座しやがれ神様」
「な！？そこまで怒るほど有名なものか！？だったら俺が知っていないわけないんだが……」
「オイ、それは暗に『Ｗｉｎｄなんて有名じゃないよね？』って言ってるのか？そうなのか？」
「（こいつ……怒らせるとめんどくさいタイプか……？）すまん。マジで知らなかったんだ。教えてくれないか？」
「ああ、いいさ。教えてやろうじゃないか。」
「Ｗｉｎｄ　－ａ　ｂｒｅａｔｈ　ｏｆ　ｈｅａｒｔ－　っつーのはな！元はＰＣ用の１８禁恋愛シュミレーションゲームだったものだが、ＰＳ２に移植され！ラノベにもなり！果てにはＯＶＡ化とテレビアニメ化までしたというＭＩＮＯＲＩ様の作られた……」
（うわ……これは長くなりそうだ……）

（～２時間経過～）

「結論としては、ＣＧはやっぱりＰＣ版だと荒いと感じるけどそれはＰＳ２ではきっちり治っているから問題無い。と、大体こんな感じか」
いやー語った語った。こんなにすっきりしたのは生きているときでもそうそう無かったなぁ。
「」
急に黙り込んでしまった。それまでは一応相槌を打ってくれていた

んだが……
「どうした？大体はわかったと思うが」
「いや、本当に好きなんだなぁ……と思ってな。普通いくら好きなものでも2時間連続休みなしで話し切るやつはそうはいないと思っていたんだが……」
そんな当たり前のことを言われてもなぁ……
「で、だ。Ｗｉｎｄの世界に行くことはできるんだよな？」
「あぁ。もちろん。」
「じゃあ、時間としてはゲーム本編の真が転校した直後の冬に頼む。」
「オッケーだ。後、話を聞いた感じだとなんかの力を使えるようにしてほしいんだろう？」
「そうだな。じゃあ、『他人の力をコピーする力』ってのはどうだ？条件としては『力を持っている奴に会う』こと」
これは元々、生きていたころから考えていたことだ。
俺はどうしても本編に満足できなかった。
その理由があるキャラの扱いがひどいからだ。
俺はそのキャラを救いたい。
そいつを救うには真の『力を吸収する力』は必要不可欠だ。
生きていたころはただの妄想だったが、今となっては現実のものとなるのか……なんか感慨深いな。
「あ、容量オーバーだ。それで行きたいなら条件追加しろー」
「くそっ。……なら、『コピーした能力は一つずつ、一日三回までしか使えない』ってのでどうだ。」
「ん～容量オーバーだな一日一回ならセーフでおまけも付けられるぞ」
一日一回……まぁ、元からその予定だったしな。おまけまで付けられるなら好都合だ。
おまけ……おまけか。まぁどの世界でも金は必須だろ。
「よし。ならそれで。おまけは『一日の終わりに金を補充する財布』

ってのでどうだ？ああ、もちろんＷｉｎｄの世界で使える金だ。」
「金関係なら結構ゆるいから『いくら使っても金が消えない財布』でもオッケーだぞ」
「ならそれで。ああ、あといくつか聞きたいことが……」
ん？どっかから足音が聞こえてくるが……
「シウステクトリ！おーい返事くらいしろー！」
遠くのほうから女の声らしい声が聞こえてきた。そうか。こいつはシウステクトリというのか。
「すまん、上司が来たようだ。後のことは何とかして連絡するからこの穴の中に飛び込め！」
と言うやいなや、目の前に直径１ｍくらいの穴ができた（こいつが作ったのだろう）
「一つだけいいか？」
「なんだ？手短に頼むぞ？」
「俺に何を落としたんだ？」
「ＴＶのリモコン」
「……次に会う時を覚悟していろ」
「え？」
「なんでもない。そら、行くぞ」
「幸運を祈っている。君の行く末に幸あらんことを」
「いちおー神様らしいセリフを吐くんだな。じゃあな。」
そう言って俺は穴の中に飛び込んだ。
これからどんな生活が待っているのだろうか。
「楽しみでしょうがないな」
とひとりごちるのだった……

ちなみに。
「シウステクトリ……？あなた今何をしましたか……？」
「いや！待ってくれ！これには深いようで深くないような理由があ

ったりなかったり」
どうやらあいつの減棒は免れないようだ。ざまぁ。

## 第一話　Ｂｏｙ　ｍｅｅｔｓ　Ｇｏｄ（後書き）

はい。どもです。ｔｅｒｕという物体Ｘです。（よくわからないものって認識でＯＫです）
ここまで読んだってことはこれからも読む気があるのか？はたまた「こんなもの読んで損した」って感じで右上の×ボタンをクリックするのか……
作者としては非常に胸が痛くて痛くて……（極度の緊張です）
できれば感想とかもらえませんかね？なんて言ってみたり；；

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8070x/

Wind -an irregurar blow tender breath-

2011年10月22日03時42分発行